

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

本学看護学部の入学定員 90 名、3 年次からの編入学定員 5 名は、我が国における少子高齢化の進展等による社会構造の変化や医療技術の進歩、「地域包括ケアシステム」の推進等による医療体制の変革等により、確かな知識と技術を持つ質の高い看護師が求められていることを背景として、近年の全国的な看護師等養成大学の設置数（入学定員数）と応募者の増加状況、本学附属病院を含めた岩手県内における慢性的な看護職員不足を背景とする養成施設の設置状況と志願者の動向ならびに充足状況、また、岩手看護短期大学（入学定員 60 名）における近年の志願者の動向、さらには、岩手県とその近隣県の高等学校 2 年生を対象に実施した入学意向調査等を総合的に踏まえたうえで設定しているため、中長期的かつ安定的に定員を充足することは、十分に可能であると考えている。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 看護師等養成施設の状況

全国の看護師等養成大学は、平成 19 年度は 158 大学であったが、平成 27 年度には 250 大学に増加、これに伴い、募集定員も 12,323 人から 21,034 人へ、受験者数も 57,622 人から 116,903 人へそれぞれ増えている。この間の競争倍率は平均 4.9 倍、充足率も平均 108.2%と極めて良好な状況となっている。編入学生については、いずれも減少傾向にあるものの、平成 27 年度においては、定員 736 人に対し受験者 1,156 人、競争倍率は 3.3 倍、9 年間の競争倍率の平均も 3.3 倍と安定して推移していることがわかる（資料 1）。

岩手県内の看護師等養成施設においては、平成 10 年度の志願者 3,938 人、入学者 978 人をピークに年々減少し、平成 20 年度には志願者 1,714 人、入学者 650 人となった。その後は徐々に増加傾向となり、平成 27 年度の時点では、志願者 1,761 人、入学者 657 人となっている。定員の数は、平成 20 年度以降の変動はなく、平成 28 年度に専門学校（定員 40 人）が新たに開設予定であるものの、志願者を受入れるだけの定員は満たしていな

い状況である（資料2）。なお、岩手看護短期大学における最近7年間の志願者の平均は143.7人（最高185人、最低128人）と安定的に推移している（資料3）。

平成27年度における岩手県内の看護師等養成施設への入学者は、県内出身者が565人（86.0%）であり、一方で県外の看護師等養成施設への進学者は257人、うち専門学校等の養成所が107人、大学・短期大学が150人となっている（資料2）。なお、平成27年度に岩手県内の大学に入学した学生2,524人のうち県内の高等学校出身者は1,217人（48.2%）であるのに対し、県内の高等学校出身者の大学進学者4,519人のうち県外の大学に入学した学生は3,302人（73.1%）であり（資料4）、このことから、県内の看護師等養成施設はもとより、県内の大学全体を見ても、高校生の進学先を吸収しきれていない状況がうかがえる。全国的な傾向と同様に岩手県における18歳人口は、平成4年度の22,833人（東北6県合計153,202人）をピークに減少に転じ、平成27年度の時点で12,714人（東北6県合計89,965人）、その後も緩やかな減少傾向が続くことが予測されているが、大学進学者は、平成4年度の4,159人（東北6県合計29,046人）から平成27年度には4,519人（東北6県合計35,415人）へと緩やかな増加を続け、大学進学率も18.2%（東北6県合計19.0%）から35.5%（東北6県合計39.4%）に上昇している。近年の大学進学率がほぼ横ばいで推移しているため、大学受験者は横ばいまたは微減するものと予測されるが（資料5）、以上のような、全国そして岩手県の看護師等養成施設の志願状況の動向等を勘案すると、長期的かつ安定的に受験生を確保することは十分に可能であると考えている。

2) 入学意向調査の結果

定員の充足が十分に可能であることの客観的、数量的な根拠を確認するため、平成29年度の受験生、すなわち、現在の高等学校2年生を対象として、平成27年12月から平成28年1月に入学意向調査を実施した。なお、この調査は、客観性を担保するため、第三者機関（株式会社 進研アド）に委託して実施した（資料6）。

調査対象校は、岩手県および近隣県のうち、本学医学部、歯学部ならびに薬学部への入学実績の多い高等学校および岩手看護短期大学への入学実績のある高等学校から地域性も考慮し56校を選定、うち49校から回答を得た。なお、有効回収部数は7,371部（回収率：70.0%）であった。

調査の結果、私立大学への進学希望者は 2,245 人 (30.5%)、興味のある学問系統で「看護・保健学」と回答した者は 1,415 人 (19.2%)、本学看護学部を「受験したいと思う」と回答した者は 1,931 人 (26.2%)、そのうち、「入学したいと思う」と回答した者は 1,881 人 (97.4%) であった。なお、興味のある学問系統で「看護・保健学」と回答し、本学看護学部を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した者は 800 人 (56.5%)、私立大学への進学希望者のうち、興味のある学問系統で「看護・保健学」と回答し、本学看護学部を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した者は 271 人 (58.5%)、岩手県の高校在籍者に絞ると 139 人 (61.8%) と、いずれも予定している入学定員を上回る結果であった。

また、本学看護学部の特色への関心に関する設問では、『看護師だけでなく保健師や助産師の資格も取得することができます。』では、「とても魅力を感じる」が 2,163 人 (29.3%)、「ある程度魅力を感じる」が 3,179 人 (43.1%)、『既存の医・歯・薬学部との連携教育により、高度な専門性と人格を身につけた看護師を育成します。』では、「とても魅力を感じる」が 2,115 人 (28.7%)、「ある程度魅力を感じる」が 3,264 人 (44.3%)、『東北最大級の病床数を誇る岩手医科大学附属病院で実習を行うことにより、最新、最先端の医療を学ぶことができます。』では、「とても魅力を感じる」が 2,834 人 (38.4%)、「ある程度魅力を感じる」が 2,795 人 (37.9%)、『高度治療・入院機能を持つ新附属病院（平成 31 年度開院予定）での実習ができます。』では、「とても魅力を感じる」が 2,455 人 (33.3%)、「ある程度魅力を感じる」が 3,007 人 (40.8%) という結果であり、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」を合わせた回答が、いずれの設問も 7 割を超えるなど、非常に高い関心があることがうかがえた。

以上のことから、看護者に対する社会的な需要が年々高まる中、全国そして岩手県の看護師等養成施設の志願状況の動向等および本学看護学部への入学意向調査の結果からも、入学定員の中長期的かつ安定的な充足は十分可能であると認識している。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

看護学部の教育の質を担保するためには、良好な物的・人的教育研究環境を維持する必要がある、このためには、安定的な財政基盤を確立しなければならない。学生納付金を設定するにあたっては、看護学部の収支バランスを

図ることを前提として、東北地区の看護系私立8大学（青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、弘前学院大学、八戸学院大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、秋田看護福祉大学、日本赤十字秋田看護大学）の初年度学生納付金の平均 1,677,500 円、次年度以降学生納付金の平均 1,415,000 円【入学金 262,500 円、授業料 933,750 円、施設費・教育充実費 313,750 円、実習費 167,500 円】を参考に、法人全体の収支や地域性も考慮し、初年度学生納付金を 1,650,000 円、次年度以降学生納付金を 1,400,000 円【入学金 250,000 円、授業料 1,000,000 円、施設整備費 250,000 円、実験実習費 150,000 円】に設定した。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学における受験生募集のための広報活動は、学長の指揮命令のもと、各学部長の他、医学部、歯学部、薬学部の教授および教養教育センター長で組織する入学試験センターが統括している。同センターには専任の職員を置き、大学案内（刊行物）やホームページによる大学紹介、オープンキャンパス、マスメディアの活用、進学相談会への参加および高等学校・予備校訪問等により、年間を通して積極的に全国的な広報活動を行っている。看護学部の学生募集広報についても、これらの活動を拡充することにより展開していくこととし、大学案内への特集ページの追加、ホームページ特設サイトにおけるリアルタイムな情報発信、看護学部専用リーフレットの作成、進学相談会等への看護学部専任教員予定者の積極的な参加、看護学部単独での高等学校訪問等を積極的に行っていく。もともと、既存の医学部、歯学部および薬学部が医療系を志す高校生等を中心とした広報活動を行っているため、看護学部の広報もターゲットを外すことなく展開できるものと考えている。

本学は、岩手県内の5大学と高等専門学校が連携し高校生の進学率の向上や県内の様々な課題に取り組むことを目的とした「いわて高等教育コンソーシアム」によるウィンターセッションや駅前講義等の活動、高等学校からの依頼により実施している出前講義や震災関連の講演会、セミナー等を通して、高校生と接触する機会が多くあり、看護学部の周知を図る上でも有効に活用したいと考えている。

また、本学は、看護学部の開設を予定している平成29年4月に創立120周年を迎える。看護学部の設置は、附属病院の移転と合わせ、創立120周年記念事業と位置づけている。これらの記念事業の広報活動においても、岩手県そして

全国へ、これまで本学が行ってきた活動や看護学部の設置を含む新しい取組みを発信していくこととする。

以上のように、看護学部の設置に係る周知や学生募集に係る広報活動については、岩手県そして全国に向けて、戦略的・重層的な取組みを行うこととしている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は明治 30 年、創立者三田俊次郎が岩手県の医療の貧困を憂い、私財を投じて設立した私立岩手病院に併設された医学講習所に源を置く。創立者はまた、医療の充実には医師の充足のみでは不十分であると看破し、同時に産婆看護婦養成所を設置、看護婦や産婆の養成に着手した。これは、現在の医療において重要視されているチーム医療の概念の先鞭をなすものであり、本学の設置の趣旨、建学の精神に繋がっている。

医療を取り巻く環境が大きく変化している中、看護の現場は、医療技術の進歩や高度化、在宅医療・訪問看護・介護サービス等の地域包括ケア体制の構築、患者の高齢化・重症化、医療制度改革等に伴う在院日数の短縮と 7 対 1 看護による入院基本料の見直し、専門看護師や認定看護師等の資格認定制度の創設、国民の医療安全に関する意識の向上等により業務の密度・負担が増大している。時代の要請に応え、医療安全の確保や患者の視点に立った良質な医療サービスを提供していくためには、高い資質を有する多くの看護職員を確保することが喫緊の課題である。

本学看護学部では、以上のような歴史的な経緯と現状に鑑み、岩手県および東北地域の総合医療の推進を図るべく、医学・歯学・薬学との連携による総合的でバランスの取れた看護学教育の拠点を構築し、時代の要請である最新・最先端の高度医療、地域包括医療、チーム医療を担う看護者養成を目指している。また、本学は地域に開かれた大学として、これまで医療に関する市民講座、健康相談等を開催し、地域住民の健康と医療の向上に努めてきた。新たに看護学の専門家が加わることにより、これら地域住民に対する事業をさらに幅広く、かつ充実させるとともに、地域で活動する看護者の生涯教育にも貢献できるものと考えている。

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立された。学則には、「まず人としての教

養を高め、十分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させる」ことが掲げられている。看護学部では、この理念に基づき、社会や時代が求める要請に応えるべく次のような人材を育成する。

1. 人々の尊厳と権利を尊重し、看護専門職としての責務を果たすことのできる人
2. 科学的根拠に基づいて、計画的に看護を実践する能力を持つ人
3. 個人および地域社会の健康課題に取り組んでいく能力を持つ人
4. 多職種チームにおいて、看護専門職としての役割を発揮できる人
5. 変動する社会に関心を持ち、看護専門職として研鑽を続ける意志を持つ人

② 人材の養成に関する目的その他の教育上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 岩手県における看護職員の需給状況

本学附属病院を含む岩手県内における看護職員数は慢性的に不足しており、充足への対応は必須の課題となっている。岩手県が平成 22 年度に策定した本県の「第七次看護職員需給見通し」においても、平成 27 年の看護職員需要数 17,170.6 人に対して供給数 16,433.2 人と 737.4 人の不足が見込まれている(資料 7)。また、病院に就業する看護職員数は、平成 11 年の 11,083 人をピークに減少傾向にあったが、ここ数年は横ばい、平成 25 年には 10,051 人となっている。人口 10 万人対就業看護職員数をみると、全国平均を上回る状況で推移しているものの、全国平均との差は縮小傾向にある。病床 100 対の看護職員数は、平成 14 年からは全国平均を下回っており、ここ数年は本県の数字も伸びているものの、全国平均との差は開いている(資料 8)。このことは、本学附属病院においても例外ではなく、募集人数に対して採用数が満たない状況が続いており、看護職員の確保は緊急の課題となっている(資料 9)。

2) 採用意向調査の結果

本学看護学部の設置が、人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的、数量的な根拠を確認するため、岩手県内の看護師、保健師および助産師が働く病院、保健所、助産所の中から 107 施設を選定し、平成 27 年 12 月から平成 28 年 1 月に採用意向調査を実施、59 施設(回答率 55.1%)から回答を得た。なお、この調査についても、客観性を担保するため、第三者機関

(株式会社 進研アド) に委託して実施した (資料 10)。

調査の結果、本年度の新規大卒者の採用予定数を昨年度と比較して「増やす」と回答した施設は、看護師 21 施設 (35.6%)、保健師 3 施設 (5.1%)、助産師 3 施設 (5.1%)、「昨年度並み」と回答した施設は、看護師 8 施設 (13.6%)、保健師 3 施設 (5.1%)、助産師 2 施設 (3.4%) であった。『岩手医科大学看護学部はこれからの社会にとって必要だと思うか』の設問には、57 施設 (96.6%) と、ほとんどの医療機関が「必要だと思う」と回答している。また、『岩手医科大学看護学部を卒業した学生を採用したいと思うか』の設問については、53 施設 (89.8%) が「採用したいと思う」と回答、具体的に『毎年何名程度の採用を想定しているか』の設問に対しては、「人数は未確定」の回答を 1 名でカウントしても、看護師 171 名、保健師 23 名、助産師 32 名の採用意向があり、今回の調査が岩手県内の施設だけを対象に実施したことを考えても、十分な採用需要があると考えている。

なお、本学看護学部の特徴への関心に関する設問では、『看護師だけでなく保健師や助産師の資格も取得することができます。』では、「とても魅力を感じる」が 24 施設 (40.7%)、「ある程度魅力を感じる」が 27 施設 (45.8%)、『既存の医・歯・薬学部との連携教育により、高度な専門性と人格を身に付けた看護師を育成します。』では、「とても魅力を感じる」が 36 施設 (61.0%)、「ある程度魅力を感じる」が 19 施設 (32.2%)、『東北最大級の病床数を誇る岩手医科大学附属病院で実習を行うことにより、最新、最先端の医療を学ぶことができます。』では、「とても魅力を感じる」が 34 施設 (57.6%)、「ある程度魅力を感じる」が 22 施設 (37.3%)、『高度治療・入院機能を持つ新附属病院 (平成 31 年度開院予定) での実習ができます。』では、「とても魅力を感じる」が 34 施設 (57.6%)、「ある程度魅力を感じる」が 21 施設 (35.6%) という結果であり、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」を合わせた回答が、いずれの設問も 8 割を超えるなど、本学看護学部に対する非常に高い関心と強い希望があることがうかがえた。

以上の結果は、岩手県において慢性的に看護職員が不足していることを立証することになったが、同時に、本学看護学部の設置に対しての期待を表すものとなった。

資料目次

- 資料 1 看護師等学校養成所（大学）入学状況
- 資料 2 岩手県における看護職員の養成における現状
※いわて看護職員確保定着アクションプラン 2015〔参考資料〕（抜粋）
- 資料 3 岩手看護短期大学における志願者の推移
- 資料 4 平成 27 年度岩手県大学進学者の流入・流出状況
- 資料 5 岩手県における 18 歳人口と大学進学者の推移
- 資料 6 設置に関するアンケート調査【高校生対象調査】結果報告書
※ 株式会社 進研アド
- 資料 7 岩手県の「第七次看護職員需給見通し」
※いわて看護職員確保定着アクションプラン 2015（抜粋）
- 資料 8 岩手県における看護職員数の現状
※いわて看護職員確保定着アクションプラン 2015〔参考資料〕（抜粋）
- 資料 9 岩手医科大学附属病院における採用率
- 資料 10 設置に関するアンケート調査【医療機関対象調査】結果報告書
※ 株式会社 進研アド

資料1

看護師等学校養成所(大学)入学状況

入学試験状況									
	学校数 大学	総定員 人	1学年定員 人	応募者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競争率 %	充足率 %
平成19年度	158	49,292	12,323	65,076	57,622	20,507	13,260	4.3	107.6
平成20年度	168	52,692	13,193	67,054	59,822	22,235	14,183	4.2	107.5
平成21年度	183	57,217	14,322	70,108	62,664	23,759	15,356	4.1	107.2
平成22年度	193	61,526	15,504	87,308	79,165	25,803	17,085	4.6	110.2
平成23年度	200	64,236	16,059	98,206	89,806	26,758	17,457	5.1	108.7
平成24年度	208	67,900	16,975	107,265	98,054	29,277	18,569	5.3	109.4
平成25年度	216	71,512	17,878	118,098	108,708	31,531	19,376	5.6	108.4
平成26年度	234	78,696	19,674	127,152	116,275	36,289	21,223	5.5	107.9
平成27年度	250	84,136	21,034	127,632	116,903	39,861	22,512	5.2	107.0

編入学								
	総定員 人	1学年定員 人	応募者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競争率 %	充足率 %
平成19年度	2,391	1,138	4,254	3,931	1,380	994	4.0	87.3
平成20年度	2,407	1,205	3,785	3,479	1,388	979	3.6	81.2
平成21年度	2,404	1,165	3,425	3,142	1,281	969	3.2	83.2
平成22年度	2,294	1,163	3,122	2,857	1,178	868	3.3	74.6
平成23年度	2,310	1,152	2,553	2,392	1,041	756	3.2	65.6
平成24年度	2,041	976	2,142	1,964	847	611	3.2	62.6
平成25年度	1,773	856	1,671	1,499	664	496	3.0	57.9
平成26年度	1,611	780	1,364	1,244	553	430	2.9	55.1
平成27年度	1,569	736	1,238	1,156	466	351	3.3	47.7

(厚生労働省統計一覽より)

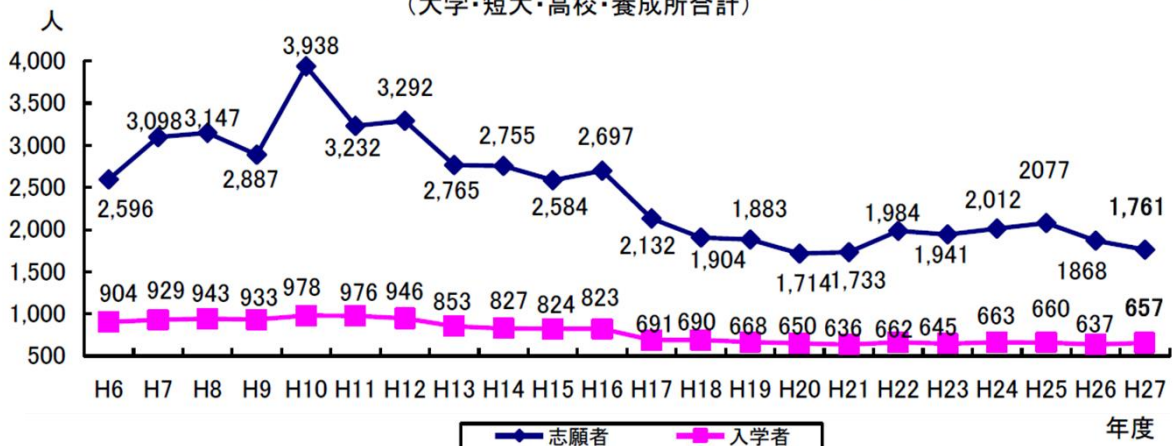
※ いわて看護職員確保定着アクションプラン 2015〔参考資料〕(抜粋)

2 看護職員の養成における現状

(1) 看護職員養成施設における志願者、入学者の状況

- 県内の看護職員養成施設においては、養成施設数の減少に伴い、志願者、入学者ともに年々減少しており、平成 10 年度と比較すると平成 20 年度の志願者数は約半数、入学者数は約 3 分の 2 となりました。(図表 6)
- 平成 20 年度以降は、定員数の変動はありません。平成 22 年度から志願者数、入学者数とも増加傾向にありましたが、平成 26 年度にはやや減少し、平成 27 年度は、志願者数は減少、入学者数は前年度よりやや増加しています。

図表 6 県内看護職員養成施設入学者数・志願者数の年次推移
(大学・短大・高校・養成所合計)



(出典：「看護関係統計資料集」(日本看護協会出版会)及び看護師等学校養成所入学及び卒業生就業状況調査から医療政策室において算出)

- 平成 27 年 4 月の県内の看護職員養成施設の入学者を出身別にみると、県内出身の者が 565 人(86.0%)となっています。

また、県内高等学校を平成 27 年 3 月に卒業した者のうち、県外の看護師養成施設への進学者は 257 人、うち大学、短大が 150 人、養成所が 107 人(准看護師養成所 5 人を含む)となっています。(教育委員会学校教育室及び医療政策室調べ)

図表 7 県内看護職員養成施設の入学者出身地別状況

区分	入学生	うち 県内出身者	うち 県外出身者
県立大学看護学部	91(100.0%)	59(64.8%)	32(35.2%)
看護短大看護学科	70(100.0%)	68(97.1%)	2(2.9%)
看護短大 地域看護学	15(100.0%)	11(73.3%)	4(26.7%)
看護短大 助産学	17(100.0%)	15(88.2%)	2(11.8%)
看護師 3 年課程	207(100.0%)	186(89.9%)	21(10.1%)
看護師 2 年課程	78(100.0%)	66(84.6%)	12(15.4%)
准看護師課程	116(100.0%)	99(85.3%)	17(14.7%)
高等学校	63(100.0%)	61(96.8%)	2(3.2%)
計	657(100.0%)	565(86.0%)	92(14.8%)

(平成 27 年 4 月入学生の状況 看護師等学校養成所入学及び卒業生就業状況調査)

資料 3

岩手看護短期大学における志願者の推移

(名)

年 度		27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度	平均	
志願者数		148	133	185	136	143	128	133	143.7	
内 訳	県内	岩手県	131	119	156	122	127	112	118	126.4
	県外	青森県	2	2	3	1	3	1	4	2.3
		秋田県	5	4	11	7	5	9	9	7.1
		宮城県	7	4	8	3	6	6	2	5.1
		山形県	2	2	3	1	0	0	0	1.1
		福島県	0	0	0	0	2	0	0	0.3
		その他	1	2	4	2	0	0	0	1.3
	合計	17	14	29	14	16	16	15	17.3	

資料4

平成27年度岩手県大学進学者の流入状況

※岩手県以外の高等学校出身者が岩手県の大学に進学した人数

出身都道府県		人数	占有率
東北	青森県	249	9.9%
	秋田県	171	6.8%
	宮城県	327	13.0%
	山形県	72	2.9%
	福島県	62	2.5%
東北以外 (上位10位以内)	北海道	108	4.3%
	東京都	32	1.3%
	茨城県	29	1.1%
	愛知県	29	1.1%
その他	228	9.0%	
小計(岩手県以外)	1307	51.8%	
岩手県	1,217	48.2%	
合計	2,524	—	

平成27年度岩手県大学進学者の流出状況

※岩手県内の高等学校出身者が岩手県以外の大学に進学した人数

出身都道府県		人数	占有率
東北	青森県	250	5.5%
	秋田県	166	3.7%
	宮城県	771	17.1%
	山形県	123	2.7%
	福島県	107	2.4%
東北以外 (上位10位以内)	東京都	541	12.0%
	北海道	270	6.0%
	神奈川県	220	4.9%
	埼玉県	179	4.0%
	千葉県	151	3.3%
その他	524	11.6%	
小計(岩手県以外)	3,302	73.1%	
岩手県	1,217	26.9%	
合計	4,519	—	

(文部科学省「学校基本調査」より)

岩手県における18歳人口と大学進学者の推移

